

ベトナムで漁業残渣問題の解決と食の安全を推進！

～延岡市の株式会社修電舎、JICA と委託契約を締結～

国際協力機構(JICA)は、2015年4月7日、株式会社修電舎(代表取締役:一瀬直行、本社:宮崎県延岡市)と「『内城菌』を活用した『循環型第1次産業モデル』の普及・実証事業」にかかる契約を締結しました。

ベトナムは、世界トップ10に入る水産物輸出国としてエビやナマズを輸出していますが、その加工段階で排出される残渣は投棄され、環境問題を引き起こしています。また、養殖過程では抗生物質が使用されており、食の安全性の確保が課題となっています。

本事業は、同社の高速かつ高温で発酵分解を行う装置「BUIK システム」を用いて、漁業残渣を有効微生物群「内城菌」で発酵分解し、抗生物質の代替品となる「生菌製剤」と、肥料・飼料となる「生菌発酵肥料・飼料」を生成。それらを養殖業、農業、畜産業に活用し、「循環型1次産業モデル」の実証・普及をベトナムの農業システム研究開発センター(CASRAD)と共に、ホーチミン市農業ハイテクパーク(AHTP)で行います。

同社は、本事業を通じてハイテクパークへ効率的な「BUIK システム」の利用方法を指導し、現地パートナーを開拓、事業展開を目指します。将来は、ベトナムをはじめアセアン諸国での食品残渣・廃棄物(生ごみ)問題の解決と、安心・安全な農畜水産物を生産することを目指します。



(株)修電舎の「BUIK システム」(左上)、ホーチミン市での調印式(右下)

この取り組みは、我が国の中小企業などの製品・技術が途上国の開発に有効であることを実証するとともに、その現地での適合性を高め、普及を図ることを目的とした「普及・実証事業」として実施されるものです。